

昭和51年1月1日発行

(通巻第50号)

ヒマラヤ

HIMALAYA

1976年1月号

『ヒマラヤ』主要目次(第20号～第50号)



日本ヒマラヤ山岳協会——HAAJ

HIMALAYAN ALPINE ASSOCIATION OF JAPAN

大自然の神秘と雄々しさ、 ガッツなトレッキング——ヒマラヤ

東はブータン・シッキムから、西はガルワール・ラダック、そしてカシミールへと三千キロ。実に、ヨーロッパ・アルプスの二倍です。雄大な八千メートル級の巨峰の連なるヒマラヤを自分の足で踏みしめ、自分の肌で感じるワイルドなトレッキングは、どのレジャーも及ばないスケールの大きさと心の安らぎを与えます。

ノー・公害

時間に追われ、人間関係のわずらわしさに悩み、たまには仕事から逃げ出したいと思っている都会のビジネスマン達、彼らにこのヒマラヤ山麓の魅力を教えてあげてください。8000m級の巨峰が連なる大自然の景観。斜面一帯を華やかに色どる花園の美しさ。海拔4865m、常に雪塊や氷塊をたたえているアルハルウット湖の神秘的な静けさ。すべてが彼らの求めている超現実的な世界です。

シッキム

ごく最近まで鎖国状態であったシッキムへ入境することができるようになりました。観光客のほとんどない現代の「桃源郷」とはこのことでした。王宮を中心に神秘の国が、静かなたたずまいを見せています。ダーズリンからの途中にあるカリンボンの町も、長期滞在に向いた静かなるでしよう。買物も楽しい思い出になるでしょう。

(註) シッキム入境の場合はインドのビザとは別に特別許可が必要ですが、詳しくはエア・インディアにお問い合わせください。

ガルワール・トレッキング

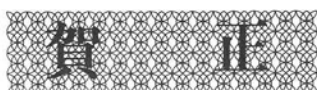
ガルワール地区は、デリーの北東約400キロの地点にあり、1974年7月から外国人に解禁されました。ナンダデビー(7816m)や、ガンジス川の源流近くにあるヒンズー教の聖地をたずねるトレッキングや、高山植物の宝庫、花の谷や4000mをこす山岳湖への旅が楽しめます。



世界の35都市をネットする

エア・インディア

東京 ● 千代田区有楽町日比谷パークビル100 ☎214-7631
大阪 ● 東区備後町松豊ビル541 ☎264-1781
名古屋 ● 中村区堀内町ホテルニューナゴヤ450 ☎581-5876
広島 ● 鉄砲町1-20第3ウエノヤビル730 ☎28-7211



HAAJ 創立 10 周年を迎えて

会 長 柴 田 金之助

会員の皆さん、あけましておめでとうございます。不況で始まり不況で終わった1975年でしたが1976年こそは輝かしい年でありますように心から祈っております。しかし、HAAJにとって1975年はガルワール登山隊の輝かしい成功などがあり、嬉しい年でありました。そして、今年はHAAJ創立10周年というおめでたい年であり、ますます発展する年にしたいと思っております。

ふりかえてみますと、善行副会長、沖前専務理事などの有志の方々が岐阜に集まり、日本ヒマラヤ山岳協会を発足したのは昨日のここのように思いますが、もう10周年を迎えることになりました。この間、30回ほどのヒマラヤの旅や5つの遠征隊を送り出しました。会員も1,000名を越しました。いまやHAAJの扉をたたかないでヒマラヤへ行った人はいないのではないと思われるほどです。現地事務所、連絡所の充実、外国のヒマラヤニストの招待、研究会など、活動は巾広くかつ国際的となってきました。また、多くの貴重なヒマラヤ関係資料も出版されました。

このようにだんだんとレベルアップしてきたHAAJではありますが、HAAJのモットーである“みんなのヒマラヤ”も決しておろそかにしておりません。秋のヒマラヤ集会、ビスタリー・クラブなど家族づれで集る集会、ヒマラヤへのファミリーツアーなども企画し、実現してきております。

10周年を迎え、より会員のサービスに重点をおき、東京事務所の充実をはかり、ヒマラヤ情報を迅速に流すなどの新しい試みをするつもりでおります。記念事業の一つであるヒマラヤ・ファミリーツアーもこれまでのHAAJ遠征隊員が現地まで同行してお世話するという計画でおこないます。その他数々の記念事業を計画いたし、4月の総会にはかつてすすめていきたいと思っております。

ぜひ皆様のご理解とご協力をお願いいたします。1976年の年頭にあたり、皆様の健康と発展をお祈りいたします。

—— HAAJ 創立 10 周年記念 ——

ヒマラヤ・ファミリー・ツアー!!

日本ヒマラヤ山岳協会は昭和51年で創立10周年となります。そこでこれを記念してカシミール、ラダック、ガルワール、ネパールへ特別企画のツアーを計画しました。費用もできる限り安くし、遠征やトレッキングのベテランが同伴し、お世話しますので、このチャンスにぜひ家族連れで美しいヒマラヤを訪れましょう。子供のための計画も組んであります。

特別コース。『8月8日発アフガニスタン(13日間)、ラダック(28日間)、12月26日発ネパール(28日間)』

- ・カシミール、ラダック(13日間) 昭和51年8月8日～20日
 - ・ネパール、ガルワール(14日間) 昭和51年12月26日～昭和52年1月8日
- 詳しい日程表があります。 } ご請求下さい。

参加資格 このツアーはツアー出発6カ月前の時点で日本ヒマラヤ山岳協会の会員である人のみしか参加できません。
入会金2,500円 会費4,000円(年額)を払い込んで下されば誰でも会員になれます。
入会に関するお問合せは……
〒468 名古屋市天白区一つ山1-44-7

申 込 日本ヒマラヤ山岳協会名古屋事務所へ
1人80,000円(申込金を払われた人から順に受け付け定員になりしだいメ切。

〒164 東京都中野区中央3丁目45-18 沢本ビル1F
HAAJ 東京事務所ツアー係 鈴木康志

費 用 食事、ガイドなど一切を含めて各コース(特別コースは別料金)とも申込金を含んで313,000円、子供(12才以下)186,000円、その他同一家族から3人以上参加の場合の家族割引もあります。

なお、上記費用は50年6月20日を基準にしております。日程の変更、航空運賃の変更などにより値上りする場合がありますのでご了解下さい。

募集人員 各コース 大人40名 子供20名
特別コース 大人のみ各20名

●日本人として初めて入ったカシミール奥地 1975年8月

秘境ザスカル山群, ピズドン峠(4,810m)

日本ヒマラヤ山岳協会・ザスカル踏査隊——速報

メンバー 石川真智子(CL・気象), 中垣淑子(食糧・医療)
宗綱チズ(会計・食糧), 角森文雄(渉外・装備)

インド北部ジャンム・カシミール州の Srinagar から Leh を経て Manali へインドが国運をかけて建設した軍用道路が伸びている。

この道路の Kargil から Leh の間の南側の 5000～6000m クラスの山群をザスカルと呼ぶ。私達はザスカル山群中の Kangi La へトレッキングを試みたが果たせず, Pizdong La の往復にとどまった。

8月6日 晴 Kargil～Suru

Suru から Pahalgam へトレッキングする日本ヒマラヤ山岳協会・酒田グループと Suru まで一緒にジープと定期バスに分乗して向う。バスは7時発の予定だったが遅れに遅れて, 出発したのは9時過ぎであった。

12時30分 Suru に着く。バスはここまでなので, 先行したジープが Suru から引き返してきてピストン輸送してくれるはずであった。

しかし, ジープは出発前にタイヤ取替えをしたため, 我々のバスより遅れて着いた。

14時30分ジープが Suru の手前から戻って来た。沢の水量が多く, Suru まで行く間に水量が更に増して次の輸送ができなくなるというのだ。荷物が多くジープだけでは全部乗らないので, Suru へ向う土木事務所のトラックに便乗する。途中 Suru の手前でジープからおろされて待っていた3人を拾う。

17時45分, Suru に着く。絶好のテント場があり, Nun のピークだけが, Suru 川が迂回している尾根の上に見える。

8月7日 晴 Suru～Parkachi

ここまで同行してくれた Kargil Tourist Office の Mr. Sana Ullah が, ポーター3人, ポニー2頭の手配をすべてやってくれた。9日間でポーター1人につき140Rs, ポニー1頭につき150Rs, Kangi La まで行った場合はポーター1人につき30Rs を追加するという条件である。ポーター, ポニーは11

時に来る予定なので待っていると結婚式の行列に会った。馬に乗った花婿は野の花に飾られてテント場の前にやって来た。年は18才。花嫁は姿を現わさなかったが17才とのこと。昨夜は笛や太鼓に合わせて歌声が明け方まで聞こえていたが, どうやら結婚式のお祝いだったらしい。テント場で, 地元の男たちが歌や剣舞を披露した。

12時15分, 酒田グループが出発。11時に来るはずの我々のポーターとポニーは待てど暮せど姿を現わさず, 待ちくたびれて, Suru の土木事務所へかけ合いに行った。我々は Suru で貴重な1日を無駄にしたくない。所長の Mr. Dawa の好意で, 彼が Parkachi の事務所へ行くジープに便乗させて貰う。小学校の先生に我々を追いかけけるようにとのポーターへの伝言を頼む。

18時10分, Parkachi 着。途中, 所どころ道が崩れておりやっとジープが通れた。ここではきれいな水と快適なテント場が得られ, 正面には Nun と Parkachi 氷河が見える。村人が暗くなっても私達のテントのまわりに座って, 珍らしそうに見ていた。20時30分にポーターとポニーが到着した。



8月8日 快晴 Parkachi～Gurumatonga

7時30分、Parkachiを出発する。Parkachi 氷河の末端がSuru川に落ち込んでいて、時々凄い音と共に氷と水の柱が立ち登って崩壊する。Suru川の北側には際だった山は見えないが、南側(Nun-Kun側)には写真で見るヨーロッパアルプスのような岩山が氷河を抱いて聳えている。ジープが通れる道が右岸沿いについて時々、道路工事をしているのに会う。昼食に初めてチャパティなるものを食べる。余りうまいものではない。この辺一帯、木がないのでポーターは牛のフンの乾燥したものを拾ってきて燃料にする。余り煙も出ず火力もかなり強いようだ。17時20分、Nun KunとShaft氷河を望むGurumatongaのキャンプ地着。

8月9日 快晴 Gurumatonga～Rangdom Gompa

朝はかなり冷えて6時の気温は3℃であった。

今日も朝から快晴で右手に素晴らしい岩山を見ながら歩く。日射が強く余りの暑さに午後から傘をさして歩いた。

14時30分、Rangdom部落に着く。Suru川に沿うParkachiまでの回教圏以後、はじめて、チベット風のチョルテンやタルチョーを見る。戸数は15戸位だろうか。土木事務所の出張員Mr. Wazir Mohod Hassanに会いアドバイスを受ける。野生の鳩を2羽、プレゼントされたので晩のおかずにした。

17時、Rangdom Gompaの河原着。ここをキャンプ地とする。Rangdom GompaはSuru川の広大な河原の中に在る小さな丘の上に建っている。キャンプ地から近いので行ってみることにする。丁度ブジョ(お祈り)の時間で、ラッパ、太鼓を使って非常ににぎやかであった。ここはラマ教の黄帽派と思われ、黄色い帽子をブジョの途中からかぶっていた。



《表紙の言葉》 斉藤 満＝ヌブマタンのカルカでシェルバがチャパティーを作ってくれた。うす暗いカルカの中で、彼等は楽しく料理していた。

8月10日 晴 Rangdom Gompa～二股

Suru川はRangdom Gompaのあるこの地点で大きく3つに分れる。昨日土木事務所の出張員から、右がPensi Laへ、左がKangi Laへ向うということを知っていたが、私達の持参した簡単な地図と照して見てどうしても左がKangi Laとは思えず、ポーターに聞いても本流がKangi Laだと答えるので本流を進んだ。しかし、しばらく進むと大きく地区と方向がずれて来た。ポーター頭のMohmadは右岸のゴルジュの奥にのびている雪の沢を指して、あのコルがKangi Laだと言う。しかし、地図にあるKangi Laとは位置が異なり、合点がいけない。ともかく、我々はKangi Laへのルートをとっていないのはたしかだが残り日数が少なかったものでこのまま行ける所まで行くことにした。

8月11日 晴

二股～支沢との分岐～Pizdong La～支沢との分岐

残り日数は今日1日で、明日から下山にかからねばならない。朝から一緒になったチベット人の一家にこのルートがどこへ行っているかを聞いて、Pizdong Laへの道だとの返事を得ていた。はるか下にSuru川の水音を聞きながら、左岸沿いのはっきりした道を歩く。やがて道は本流を横切って小さな尾根を越す。私達はそこをキャンプ地にして空身で枝沢を辿った。最後の徒渉をして腐った雪の斜面を登るとそこがPizdong Laであった。パッと視界が開けて果々と白い山、岩山が見える。峠の中央にはオボ(祈りの旗のようなもの)があった。詳しい地図がなく現在地が確認できないのは残念だったが、高度を測り(4810m)、チベット人一家にこの道がChakcha La, Dbing La, Linshet Laを経てLamayuraへ通じていると教えてもらい、Pizdong Laを後にする。チベット人一家はあと5日間位でLamayuraへ着くらしい。

8月12日 夕刻一時雨

支沢と分岐～Rangdom Gompa

ポーターは下山が余程うれいらしくピッチが速い。登りに1日半かかったところを1日で下った。17時30分、Rangdom Gompa着。夕方、夕立に見舞われた。

8月13日 晴のち曇、一時雨

Rangdom Gompa～Somethic

Rangdom部落へ行く途中で、土木事務所の出張員に会う。Pizdong Laへ行ったことを話すと本流を行ったからだという。やはりKangi Laは左の沢だったらしい。記念写真を撮りお礼を言って別れる。行きに幕営した所より少し足をのばしてSomethicで幕営。やはりNun, KunのShaft 氷河が目の前にある。

8月14日 晴のち曇 Somethic～Parkachi

往復コースの場合、復路は興味半減である。写真も余り撮らず黙々と歩く。16時25分Parkachiに着く。テントを張った後、久し振りに洗髪し、さっぱりする。

8月15日 晴のち雨 Parkachi～Suru

往路はジープで通った道を炎天下足を引きずって歩く。12時50分Suruに着く。ここでの待ち時間が長かったのでなんとなく懐しく感じられる。ポーターに賃金を支払い、残った食料や、シャツ、セーター、靴下等をプレゼントして帰す。12日以来、午後になると雨が降るが、今日は強く降りツェルト内に少量の水がたまった。

8月16日 晴のち曇、一時雨 Suru～Kargil

9時に来るはずのジープがなかなか来ない。聞けば昨夜の雨で道路が不通になったらしい。ジープをあきらめ、13時に来るというトラックを待っていた所、あきらめていたジープが来てくれた。やはり雨で道路が崩れ、長時間待たされたらしい。途中1回パンクしたが18時15分、Kargilへ着く。さっそくMr. Sana Ullahに会い、お礼を言う。彼には非常にお世話になった。明日のSrinagarまでのバスの切符を買い、夕食は久し振りにレストランで地元のおいしい料理を食べ10日余りの山行を振り返った。

今回のトレッキングはKangi La往復を目標にしていたが、取付きを間違えてしまい目標は達せられなかった。しかしKangi La同様日本人には未知であったPizdong Laへ行けたことは幸運であった。機会があれば再び行って更に奥まで入ってみたい。私のエゴかも知れないがその時まで山も人も今のまま変わらずにいて欲しいと思う。最後にいろいろとお世話になった沖前専務理事はじめH A A Jの皆様へ厚く御礼申し上げます。

(文責・角森文雄)

51年度 HAAJヒマラヤ集会開催予定

〈51年〉

1月23日(金) 東京 定例 18時～20時
 2月13日(金) 名古屋定例 "
 2月27日(金) 東京郵便会館 "
 NK・ガルワル合同報告会
 3月21日(金) 名古屋定例 18時～20時
 3月26日(水) 東京定例 "
 4月9日(金) 名古屋定例 "
 4月11日(日) 総会 東京 13時～16時

北海道集会 毎月第1月曜日 18時頃から、札幌市北1西4棟向 喫茶「ねむの木」の3階特別室でおこなっています。奇数月定例、偶数月自由集会。

問合先 阿部 淳 理事

名古屋定例場所

(名古屋駅西100m)

東京定例場所

HAAJ東京事務所

毎月第1金曜(自由) 第4金曜(定例)

——名古屋集会報告——50年11月4日——

インドのCox & Kings 旅行社のS.KUMAR氏を招いてインド・ヒマラヤの紹介をスライドを使用して説明していただいた。内容は次号で報告。

参加者：浅倉義勝，荒木健次，高野 勤，岩水竜峰，渡辺 博，須賀玄郷，熊沢友三郎，松本香代子，湯上弘子，加藤教子，佐橋忠明，山田ひさ子，鈴木康志，久保幸治，沖 允人，榎井照和，山田正弘，増田秀穂

——HAAJ DELHI OFFICE——

都合により当分の間使用禁止にします。——

——HAAJ東京事務所——

ヒマラヤ・ツアー関係，東京集会，デリー事務所使用・デポ装備借用申込の事務をおこないます。事務局員としてはHAAJ NK隊々員であった鈴木康志さんが担当します。電話は当分の間，神本商事(ジンショウ)と共用です。

〒164 東京都中野区中央3丁目45-18 沢本ビル1階

交通 国電 中野駅下車 徒歩10分。中野駅，永福町，渋谷，新宿から近くまでバスも出ています。「公会堂下」下車5分(バスは№3)

HAAJインドヒマラヤ登山隊 帰国歓迎・報告会 予告

下記のように1975年に日本ヒマラヤ山岳協会が主催した2つの登山隊の公式報告会を開催いたします。皆様のご出席をお待ちしております。出席者の方には登山隊速報，「ヒマラヤ」特集号，など記念品をお渡しいたします。

日時 51年2月27日(金) 18時～20時30分

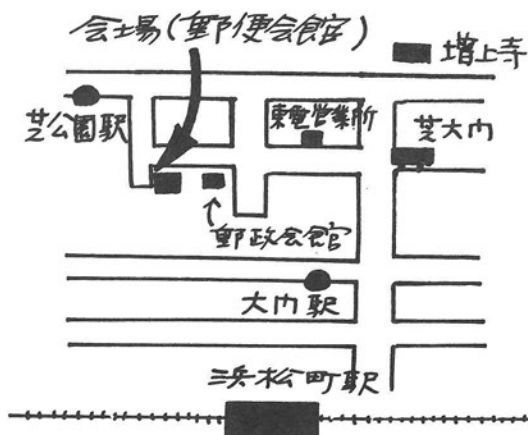
場所 東京都港区郵便会館大会議室 電03-433-7211
 東京都港区芝公園2丁目5-20

交通 地下鉄都営6号線「芝公園」下車，「大門」下車，国電「浜松町」下車。(1～7分)

- 内容
1. 会長あいさつ
 2. インドヒマラヤ概況
 3. カシ米尔隊報告(スライドによる)
 4. ガルワル隊報告(スライドによる)
 5. 質疑応答
 6. トレッキング報告

会費 1人 1,000円(記念品代を含む)

準備の都合がありますので同封アンケート用ハガキで出席をご連絡下さい。(定員80名)



ヒマラヤから日本から

★ 藤井 毅 東京

10月29日

東部ヒマラヤの研究、本、その他

インドからとどきました、アルナチャルやアッサムの本をべらべらとめくって読んでいますが、私が今まで頭に描いてきた「インド」とは全く違うな、という感をますます強くしています。

ヒンズー教の影響は無視できないとしても、アルナチャルやアッサムの丘陵部は、やはり「アジア」だと思います。

それも、インドシナやビルマ、チベット、雲南、あるいはフィリピンやタイなどと、深くつながってくる意味において「アジア」だという気がします。

写真集を見ていても、どうしてもカルカッタやデリーなどのヒンズー・インドのことは頭に浮かんでこず、ベトナムやラオス、ビルマなどの少数民族の人たちとのつながりを考えてしまいます。

先日、東南アジアの山岳少数民族の人たちの暮しの様子を撮った映画を見る機会がありましたが、どうしてもアッサムの丘陵部やアルナチャルの人たちの写真と二重写しになってしまいました。

今のところ、アッサムやアルナチャルについては、お先まっ暗の状態で何とも言えないのですが、ただ、ネパールやブータンなどについて勉強するのは、また違ったむずかしさや、方法があるな、ということだけは言えるみたいです。

新着の本を一部読んだだけで、ますますアッサムにもう一度行かねば、と思っています。

もちろん、アッサムや時にアルナチャルに実際に行きたいからこそいろいろと勉強しているのですが、あくまでも、その土地で暮す人たちとかかわりを持つということを大事にしたいと思います。

アルナチャルの行政当局から発行された本は、非常に詳しく、専門的で興味深いものばかりなのですが、その反面、読み手である私が、こまかいことばかりにこだわっていると、かえって全体像というか、他の地域や人達とかかわりがわからなくなってくるようです。前にも沖さんから助言していただきましたが、あれも、これもと手を出していると、結局泥沼にはまってしまうようなもので、何もわからなくなってしまうのかもしれない。

もちろん、日本で紹介されていない土地のことを勉強するということは、かなりの試行錯誤があって当然なのでしょうが……。

しかし、東部ヒマラヤ研究会(仮称)は是非やってみたいことです。とにかく、この研究会だけは責任をもってやりたいと思っています。実際のところ、他のことはどこまでやれるか自信のないことばかりなのですが、「東部ヒマラヤ研」ということに限ってやってみたいと思います。

私個人としては、どちらかという、東部ヒマラヤに住む人達の方に関心が強く、純粋な意味での東部ヒマラヤの未踏峰には、それほどでもないのです。ですから、その点ヒマラヤの山に興味のある方にも、参加していただかなければと思っています。(東部ヒマラヤ研究会事務局 藤井 毅 〒153 東京都目黒区東山2-16-2-301)

★ 岡本俊彦 高知市

11月8日

1976年のプレモンズーンにネパールヒマラヤのラムジュン峰へ遠征を計画中です。HAAJ隊の登頂した山です。高知山岳連盟隊の副隊長兼医療担当ということで行きますが、川田君(HAAJ)も隊員の一人で装備を担当します。(後略)

★ 石川真智子 広島市

10月12日

未知のザスカールを訪ねて

おかげさまでザスカールの山を歩くことが出来ました。もっとも日数不足で、昨年小川さんが行かれた所より3日間だけ奥へ足を延ばしただけでザスカールの核心部を歩くことも出来なかったのは大変残念です。考えていましたカンギ・ベースの案は、フィダさんやカルギルのツーリスト・オフィサーのサナウラ氏などのお話で、ポーターやガイドが雇えないから駄目になり、結局、スルで酒田グループと一緒にサナウラ氏にマネジメントをしてもらって、スル、ランダム可能であれば、カンギ・ラまでということでトレッキングをしたわけです。パルカチーガルマトンガ間で出会ったインド人のパーティはHiniskotからカンギ・ラを抜けラングダムにおりて来ましたが、カンギに入るにもHiniskotより西側の谷から屋根を越えてカンギに達し、峠附近の氷河は馬でも大変だったようで日数もかけていました。我々のパーティでは無理のようでした。ランダムより奥へは、スルのポーター達は入ったことがなかったの、カンギ・ラの位置すらわかってなかったし、また地元の人や地図のカンギ・ラの入り口より、一つ西側の谷と教えてくれましたから、遂にはラマユルへ越

えることが出来る、ピーズン・ラへ行ってしまう
ました。高度計の示度で4810m、実際は4900mぐ
らいです。地図のLama Lisi Laより少し南にな
る所でしょうか。

来年あたりHAAJで数パーティ出して、メン
クンの南側や、ベンジラを越えてザスカル河の流
域あたりのトレッキングが出来れば面白いのでは
ないかと思いますが、未知のことが多くて楽しい
けど、苦労も大変ですね。ネパールのトレッキン
グみたいにシェルパや旅行社がarrangeしてくれ
るよりは、無駄が多いけど、得ることも多いです
ね。

今考えてみると、本当によかったと思っていま
す。遅くなりましたがお礼を述べさせていただきます。
宗綱さんと2人で私的な報告書を作りました。

今度の旅では、鈴木さんやフィダさん、ブレ
ムさんに現地で大変御世話になりました。特にフ
ィダさんには一から十まで面倒を見てもらった感
があります。ありがとうございました。(後略)

★ Mrs. Fida Yoshiko (旧姓 勝美子) カシミール

当地に来て新生活をはじめもう2カ月あまりに
なります。こちらへ来てからはカシミールの人た
ちやフィダ一家に親切にされ、感激して毎日幸
せに暮しております。生活にも慣れ、ウルドゥ語
もボツボツ勉強しております。HAAJの皆さん
によりしく、よろしくお伝え下さい。 11月15日

★ 設楽芳夫 東京 11月5日

ヒマラヤ11月号で伊藤寿先生の逝去を知り驚き
悲しんでおります。あの1974年の夏のカシミール
の短かい伊藤先生との旅で、何日か同室のことも
あり、共に飲み語り、本当に立派な先生と敬服し
ておりましたのに、まことに残念です。(後略)

★ 千葉良正 札幌 11月1日

私共札幌山岳会も予定通り9月15日にBrammah
IIの登頂に成功し、10月3日早々に全員帰国いた
しました。

遠征隊出発迄の手続きのために、HAAJの皆
様には数多くの御助言と御手伝いをいただき、そ
の御蔭あつての成功と深く感謝いたしております。
今後も機会をみて、ヒマラヤに出かけたいと全員
又新たな意欲を燃やしております。

★ 藤江幾太郎 11月24日 カトマンズにて

今回でネパールも4度目です。ゴラパニの峠ま
で行ってきました。新しい宿、コテージオーロラ
(日本人経営)に泊まっています。(後略)

★ 加賀 勝 青森県八戸市 11月10日

(前略) 9/11~10/4までガルワールのトレッ
キングを行ない、成果を上げ無事帰国いたしました。

私のトレッキング行は、ラマニまでの往復でし
た。10日間かかり、ポーター5名との旅でした。
ジョシマートではモテル・ニルカンタに宿泊し、
そのレストランのマスターでMr. Chunnaと非常
に懇意となり、彼も一緒にトレッキングに参加し
ました。片事の日本語を話し、今盛んに日本語を
勉強し、明年は是非日本に行きたいと話してお
りました。又彼は非常に日本人びいきで、日本人
の登山隊やトレッキング隊には出来る限り、力添
いをしたいと話しておりました。私共もトレッキ
ングの為にパーミッションを取りに行きましたが、
オフィスではChunnaが一緒ならOKと云う事で、
直ぐに許可してくれました。彼はHAAJ沖前理
事の事を日本人で始めてジョシマートを訪れた人
だと非常になつかしがりておりました。ここでは
HAAJの名前がかなり知られており、さすがと
感心いたしました。

リシガンガのキャバンルートは想像以上に厳し
いルートです。今回は雪がなかったですが、雪の
ついた時のルートは想像しただけで恐ろしくなる
思いです。しかし晴れていれば素晴らしい展望で
す。ガルワールの美しさを十分に満喫できます。

私共の目標にしているドゥナギリは終りのキャ
ラバンの2日間であまりよくその姿を見る事ができ
、ルートを十分に観察する事ができました。ドゥナ
ギリはラタ部落の村長の話しでは、God(神)とい
う意味だそうです。ドゥナギリの北にあるプルビ
ドゥナギリは「北のドゥナギリ」との意味だそう
です。その名のイメージにふさわしい美しい山で
、ラタ・ヤルクの上部から見ると双耳峰をなしてい
ます。十分に満足できる素晴らしい山でした。

(後略)

||||| HAAJ 会員募集 |||||

HAAJの活動充実、会員サービス向上の為に
、会員数の増大が基本となります。HAAJは今年
で創立10周年を迎えます。本年度はこれを期に大
巾な会員増にとり組みますので、ぜひ皆さんの周
辺でこの人という方に入会を勧めてください。入
会申込書、「ヒマラヤ」などを送りますので、名
古屋事務所までお知らせ下さい。HAAJの楽し
き、メリットなど多くの人に知らせてほしいと思
います。会員数と事業量のアンバランスで今が最
も苦しい時です。10周年で2,000名の会員が目標
です。ぜひともよろしくご協力下さい。

ヒマラヤの本・資料

ヒマラヤ関係のものが出版されましたら紹介しますので、名古屋事務所へ1冊お送り下さい。

書名・発行年など	著名・発行所など	頒価	送料
ミルサミールからファラクサルへ 1970年	名城大学ヒマラヤ調査隊	600円	100円
カシミールとラダック 1974年	〃	900	100
第3回東北ヒマラヤ研究会報告書 ヒマラヤ研究Ⅷ	H A A J	1,400	200
EXPEDITION I ヒマラヤ研究Ⅸ	〃	2,000	200
ネパール・ヒマラヤの旅報告書 ヒマラヤ研究Ⅲ	〃	1,200	200
秘境小チベット・ラダック (地図つき)	〃	2,400	300
第2回東北ヒマラヤ研究会報告書 ヒマラヤ研究Ⅳ	〃	1,100	200
HAAJガンジロバ隊帰国報告書	〃	300	0
海外登山研究会資料Ⅳ マカルー交信記録, 他	J A C	1,000	200
東海山岳Ⅱ	〃	800	100
東海山岳Ⅲ	〃	2,500	200
チベットとラダック	H A A J	1,000	200
カシミールの街と山	〃	600	100
ヒマラヤの桃源境, ブータン・シッキム・アッサム	〃	2,200	300
ヒマラヤを歩き登るために, 第4,5回東ヒマラヤ研報告	〃	2,400	300

「ヒマラヤ通信」「ヒマラヤ」バックナンバーは下記のもののしか残部がありません。

第1号(20円), 第2号(20円), 第9号(50円), 第17号(150円), 合本製本用表紙(200円), 第20～第50号(ただし, 27, 35, 36, 38, 39, 42は品切)。各送料共300円に割引。会員のみにしはお分けできません。

東京・名古屋事務所, エア・インディア名古屋営業所(名駅前ホテルニューナゴヤ747号室)へ取りに来ていただけると送料分だけ安くなります。下記書店でも扱っています。各地で開くヒマラヤ集会にもできるだけ持参します。注文は先着順に受付。通信での申込は代金を添えて下さい。

〒468 名古屋市天白区一つ山1-44-7 HAAJ名古屋事務所。

郵便振替振込用紙はどこの郵便局にもあります。送金料も安くて便利です。ご利用下さい。

~~~~~ HAAJ出版物の購入について ~~~~~

会員へのサービス強化として, 下記のようにHAAJ関係出版物の入手を便利に出来るようにしました。

- * HAAJ会員がその年度の会費を全額納めた場合, 図書券3枚(1枚200円×3=600円相当)をその年度の会員紹介カードと同封して送ります。会員が下記の店でHAAJ出版物を購入する場合, 会員カードと図書券を持参すれば, その分だけ安くなります。但し, 同一資料1冊につき, 図書券1枚しか使えません。通信販売も同様です。(例えば, 1,000円のもの, 図書券1枚と800円を払えばよい。)
- * 本によって200円では割引が少ないこともあります, 本屋さんの手間, 割引率, 本の値段などのことがあって, 一率200円としました。御了解下さい。

＜取扱店名＞	京都…京都市下京区四条河原町東81	海南堂
	東京…千代田区神田駿河台2-1	茗溪堂(お茶の水駅前)
	仙台…仙台市一番町2-3-32	丸善仙台
	名古屋…千種区千種駅前	ちくき正文館
	札幌…中央区南3条西3丁目4番街	成美堂(札幌駅前通り)
	広島…広島市本通1-7(金座街)	アカデミイ書店
	岐阜…岐阜市神田町通り4	自由書房
	福岡…福岡市中央区天神2丁目9-110	福岡金文堂(新天町)

新刊・旧刊案内

白い城砦 ビハリジョット北峰・インド・ヒマ
チャルブラディシュ・ヒマラヤ

1974年長野県勤労者山岳連盟インドヒマラヤ登山
報告書 非売品 1975年5月14日

雪男の糞を見つけたというニュースで新聞紙上
を賑わした同隊の公式報告書。B5変型177P。イン
ドの登山手続、通関についても詳しい。写真多
数。送料実費で2,600円。下記にお問合せ下さい。
〒160 東京都新宿区戸塚町3-126 日本勤労者山岳
連盟出版局

P29 遠征報告書

大阪大学山岳会で、昭和50年11月末、P29遠征
隊報告書が発刊される。マナスル三山の中で、最後
の未踏峰であったP29峰への、10年にわたる、4
度の遠征の記録が全て収められている。

内容 第一次隊(西面 1961年プレ)
第二次隊(東面調査 1963年ポスト)
第三次隊(東面 1969年ポスト)
第四次隊(東面より登頂 1970年ポスト)

A5版 本文170頁、写真18頁

なお、昭和37年12月10日に発行された「P29 西
面」篠田軍治著、も若干在庫ある由。

クワジャ・ムハマッド山群 1972年

福岡高体連 50年11月8日 非売品

250ページの部厚い本である。

第1部が登山報告、第2部 アフガニスタンの
見聞記、第3部研究・資料からなっている。内容
はよくまとめられており、アフガニスタンへ入る
人たちのよい参考書である。問合せ先 〒839-01
久留米市大善寺町大字宮本1509-8 佐野昇三

第6回 HK会議報告書(カラコルム情報など)

1,500円 送料200円 HAAJ事務所にあります。

ネパールの旅 HAAJ 11月1日発行

66ページ 600円

「ネパール王国旅行案内」「カトマンズとその周辺」
のHAAJ出版のガイドブックが絶版になっていた
ので、この2冊の内容を1冊にし、ネパールに長
期滞在した佐々木正を編集者に加え、大改訂をし
て出版したものである。B6版のポケットに入る
もので、ネパールへ旅される人の必読の本といえ
よう。簡単なネパール語会話集も便利。HAAJ
事務所にあります。

ヒマラヤを歩き、そして登るために

HAAJ 11月1日発行 277ページ

2,400円 HAAJ事務所にあります。

第4回、第5回の東日本ヒマラヤ研究会の報告
書である。高処タックティクスの問題(中島、浅
見、村井ほか)、中央アジア探検史をめぐって(水
野)、インドヒマラヤ登山の手続、情報など、H
AAJ内外の有識者を集めて開催したヒマラヤ研
究会報告書なのできわめて有用である。実用書と
してだけでなく、ヒマラヤのいろいろな話が盛り
込んであり、楽しい読み物ともなっている。この
本でヒマラヤ研究X(10冊目)となるのでI~Xま
での主要目次が巻末にそえてある。

ヒマラヤの旅 長谷川伝次郎著 国書刊行会

12月発行 29,000円 B4版、354P

昭和のはじめにヒマラヤに入った日本人、長谷
川伝次郎の写真文集の復刻版。

中国ラマ教美術大観 逸見梅栄著 東京美術
箱入り、限定500部 36,000円

ラマ教の仏像、仏画など約1,000点の写真を集
録、解説したラマ教美術の大観である。

著者が戦前、中国東北部・内蒙古地方で集めた
清朝期の作品が大半で、これに東京国立博物館、
東北大などのコレクションを加えている。

東北アジア考古学の研究 三宅俊成著

国書刊行会 11月発行 9,000円 A5版

戦前、戦中におこなった大嶺屯城址などの調査を含む。なお、国書刊行会からはこの他に「東西交渉史の研究(全二巻)」藤田豊八著 18,000円、「ユーラシア東西交渉史論攻」鈴木治著 4,800円が発行されている。

古銭の道 森豊著 角川選書 760円

シルクロードから発掘された和同開珎の謎などシルクロードの古銭にまつわる話。10月31日発行

ヤルン・カン 京都大学学士山岳会編

朝日新聞社 5,500円 11月25日発行

ネパールの東部カンチェンジュンガ山群の未踏峰ヤルン・カンの登頂、そして松田隊員の行方不明というヒマラヤのドキュメント。

鳥居龍蔵全集(9)「蒙古旅行・満蒙の探查ほか」

朝日新聞社 11月15日 9,800円

ヒマラヤ東部、アッサム、ビルマなどを民俗学的に調査した鳥居龍蔵の全集のうちの1冊。他の巻も貴重なもの。

第7回 ヒンズークシ・カラコルム会議開かれる

11月8・9日 於・福岡市—《速報》—

＜登山報告＞ K₁₂(市川山岳会)、K₆(富山山雄会)、サルトロ・カンリ(東京北稜山岳会)、マルビティン(JAC岩手支部)、スパンティック(郡山山岳会)、ライラ(碧稜山岳会)、ブニ・ゾム(ベルニナ山岳会)、プリアンサル(京都カラコルムクラブ)、チョゴルンマ氷河(同支隊)、チョクトイ氷河、ピアフォ氷河(群馬岳連)、カンビレディオール(広島山の会)、テラムカンリ(静岡大)、その他。

＜登山計画 1976年＞ ムズタークタワー(RCCII)、バツラムズターグ(京都カラコルムクラブ)、アブサラスI峰(東北大)、同(大阪大)、ナンガパルバット(福岡大)、ミアル峰(福岡GCC)、バツラI峰(泉州山岳会)、同(下関山岳会)、シェルピカンリ(神戸大)、バツラ(飯田山岳会)、など。

＜現地情報＞ (1) 登山許可は希望山名の中からパキスタン側で一方的に決められる。早く申請する方がよい。トレッキングも申請を必要とする。パキスタン大使館を通して3カ月以上前に申請するとよい。現地で申請すると10日以上待たされる。(2) 許可範囲はツーリストとしては中国国境より10マイル以内、アフガン国境より30マイル以内が許可されるがはっきりしていない。登山、トレッキングはパキスタン国ならどこでも許可対称となりそうであるので、とにかく申請してみることである。なお、登山、トレッキングともしエゾンオフィサーがつく。ツーリストの場合は許可不要でリエゾンもつかない。ツーリストとして歩ける範囲はイスラマバードのPTDC(パキスタン観光局)で聞くと分る。(3) 通関その他、登山隊は通常

の通関が必要。トレッキング、ツーリストはあまり荷物が多くなければ無税で通関できるので、極力荷物を少なくする方が得策である。

(4) 現地の物価(1US\$=9.75Rp)(単位ルピー)

石油ランプ(12)、ナベ(20)、フライパン(中)(17)、お盆(3)、お玉(2)、圧力ガン(175)、食器(ブリキ)(2)、石油(1ℓ/2)、ミニバス(1日/700)、ジープ(1日/500~800)、ニワトリ(1羽/10)、小羊(1頭/100)、玉ネギ・ジャガイモ(40kg/93)、ポーター(1日/25~30+食費または10)、コック(1日/18)、(以上はおおよその値段だと考えて下さい)

(5) 登山料(ロイヤリティ) 6,500m以下750\$

6,500~7,000m 1,000\$ というように分けられている。詳しくはパキスタン大使館に申請したときに分る。(6) 現地での保険 ラワルピンディにあるアルファ社が便利。値段も交渉で決まり日本より安い。大体リエゾン3カ月で600~700Rp、ポーター1カ月60Rp。保険屋はホテルで連絡がとれる。

(7) アプローチ インダス・ロードは工事のため1979年頃まで通れない。しかし、ときどき通れることもある。従ってフンザ入域許可はむづかしい。スカルドウ、ギルギットへのフライトは天候の都合で便数が少なく、(1975年8~9月は1カ月当り6~10便。40人位乗り) 座席の確保は難かしいので、余裕をもってピンディに着くことが望ましい。

(8) チェックポストがギルギット、スカルドウ、アスコレ、ウルドカスにできる。現地ニュースも聞ける。なお、HK会議事務局は「〒503-13 岐阜県養老郡養老町中157、」です。(沖 記)

「ヒマラヤ」 主要目次 第20号～第50号

沖 允 人 編

第1号～第19号はB6版(ワラ半紙の $\frac{1}{4}$)で発行され、その主要目次は第19号に載せてあるので、ここでは第20～第50号の主要目次としてまとめました。集会案内、図書・資料紹介、会員だより、ツアー日程などはページ数の関係もあって省略しました。バックナンバで在庫のものは1号(20円)、2号(20円)、9号(50円)、17号(150円)、第20～第50号(200円)(ただし、27、35、36、38、39、42を除く)いずれも残部は多くありませんので、申込順とし、品切の折はご了解下さい。申込は会員に限ります。HAAJ名古屋事務所へ代金をそえて連絡して下さい。

第20号 46. 8. 25

協会の意図するもの	柴田金之助	20- 1
カトマンズ生活を省りみて	竹沢昭治	20- 2
キラ・マン・セルチャン君ネパールへ帰る		20- 5
東北ヒマラヤ集会を終えて	稲田定重	20- 7
カシミール登山隊出発		20- 7
第7回ヒマラヤの旅 —参加者の皆さんへ—		20- 8
第7回ヒマラヤの旅 —50の質問と答—		20-11
ヒマラヤ紀行 —ガブラル(スワート)での数日、昭45年夏—	久保田瑞枝	20-18
ヒマラヤ学入門(その7) HAAJの利用	丸山信治	20-19
ヒマラヤ学入門(その8) ネパール語を勉強する人々のために	竹沢昭治	20-20
深田久弥さんの功績について	野上成男	20-22

第21号 46. 11. 25

カシミール・ヒマラヤ登山隊(1971年)帰国		21- 1
ゴザインクンドへの旅 —シェルパと共に—	堀内立三	21- 2
富士山・ヒマラヤ集会を終えて		21- 7
第7回ヒマラヤの旅 —参加者の皆さんへ—		21- 9
旅行地紹介(その1) シーカ方面<ポカラ班>		21-13
旅行地紹介(その2) エベレストの麓へ<ナムチェ班>		21-14
ヒマラヤ紀行 —アンナプルナ南面の旅8%映画の解説より—	浜巖・清水澄	21-15
ヒマラヤ学入門(その9) 個人装備としての精神と薬品	高沢忠	21-17
ヒマラヤ学入門(その10) その国の人とのつき合い方<シェルパ>	植竹清孝	21-18
ヒマラヤ学入門(その11) 買い物<ネパール>	植竹清孝	21-19
訃報 笹川広平氏、前田光雄氏		21-26
本協会々員 坪川賢三氏の遭難について	橋本広	21-33
Bhutan 研究会 News No.1	浜巖	21-34
ネパールあれこれ	竹沢昭治	21-35

第22号

47. 1. 25

ネパールの元旦	門倉 賢	22- 1
史上最大のヒマラヤ・ツアー, HAAJ第7回ヒマラヤの旅出発		22- 2
ヒマラヤの花	小林 英見	22- 3
Bhutan 研究会 News No.2	浜 巖	22- 3
打率十割	江上 康	22- 4
<ヒマラヤ情報> ビルマ入国最近の情報	大木滝次郎	22- 9
<ヒマラヤ情報> シッキム入城について	沖 允人	22- 9
ヒマラヤ山中“おとぎの国”シッキム(信濃毎日新聞より)	光島 督	22-10
ヒマラヤ学入門(その12) ネパールの田舎の人とのつき合い方	丸山 信治	22-12
ヒマラヤ学入門(その13) HAAJについて	沖 允人	22-13
ヒマラヤ学入門(その14) ネパール・ヒマラヤに関する文献(補遺)	阿部 淳	22-16
ヒマラヤ物語シリーズ(1) (ネパール) 天国へ行ったユディスティラ	竹沢昭治訳・市村美知子編	22-30

第23号

47. 3. 25

ダージリンとマナリにHAAJ連絡所開設		23- 1
第7回のネパール・ヒマラヤの旅, 成功裡に終る		23- 2
第7回ヒマラヤの旅報告(その1) ランタンヒマール踏査行速報	稲田 定重	23- 6
コーリ氏ヒマラヤ講演会盛大に行なわれる		23-10
インド・ヒマラヤへの招待	M. S. コーリ	23-11
二度立ったエベレスト	ナワン・ゴンブ	23-14
<ヒマラヤ情報> カンチェンジュンガ方面のトレッキング	大木滝次郎	23-15
<紹介>日本アフガニスタン協会	沖 允人	23-15
ヒマラヤ学入門(その15) 写真のとり方	勝山 良三	23-18
Bhutan 研究会 News No.3	浜 巖	23-19
チベット研究会入会のご案内		23-20
ラダック研究会 —その後—		23-20
前ネパール国王追悼式(朝日新聞などより)		23-32
第10回日山協海外登山研究会開催さる		23-32
ヒマラヤ物語シリーズ(2) (ネパール) ナムラ・ブッダ物語	竹沢昭治編	23-33

第24号

47. 5. 25

ヒマラヤ写真展盛大におこなわれる 於: 東京都中央区体育館		24- 1
冬のインド旅行(1972年2月)	耕井 照和	24- 2
ヒマラヤ学入門(その16) 資金のため方	増田 秀穂	24- 8
ヒマラヤ学入門(その17) 高度の障害について	阿部 淳	24- 8
ヒマラヤ学入門(その18) お金を盗まれないために	宮原 進	24-10
カシミールの英文文献をお分けします		24-14
ブータン研究会開催さる		24-16
ブータン研究会について・チベット研究会入会のご案内・ラダック研究会		24-16

47年度 HAAJ総会報告	24-17
ヒマラヤ地方の王国(9)	P. P. カラン, W. M. ジェンキンス 24-20
ヒマラヤ物語シリーズ(3) (カシミール) えい! おお!	S. L. サドウ 24-30

第25号 47. 7. 25

第2回 東北地区ヒマラヤ研究会盛大に開催される	25-1
パンジャブ登山隊出発・滋賀岳連主催・HAAJ後援	25-3
モンゴルとゴビ砂漠	山本 克彦 25-5
<ヒマラヤ情報> 中国への旅(上)	大木滝次郎 25-8
ヒマラヤ学入門(その19) トレッキングの装備	増田 秀穂 25-11
ヒマラヤ学入門(その20) クレジット・カード	大木滝次郎 25-12
ヒマラヤ学入門(その21) トレッキング中の保険について	林 茂樹 25-13
第1回 東京都山岳連盟海外登山研究会報告	25-30
ヒマラヤ物語シリーズ(4) (ネパール) ニャーウリー・マーリ・パチュート	竹沢昭治編 25-32

第26号 47. 9. 25

1973年日本ヒマラヤ山岳協会カンジロバ遠征計画	26-1
ルクラからロブジャまで	上田 安宣 26-4
ダウラギリからジュムラ(1972年プレ)	米山 利雄 26-6
研究会だより・ラダック研, チベット研, ブータン研, ワハン研	26-12
<ヒマラヤ情報> 中国への旅(下)	大木滝次郎 26-13
ヒマラヤ学入門(その22) 病気になったとき —保険のこと—	阿部 淳 26-16
<ミニ・ニュース> ブータン国王死去(朝日新聞より)	26-17
4200米峰初登頂 —カシミール・ハラムク山群 1972 HAAJカシミール登山隊	26-24
ヒマラヤ研究Ⅲ(第7回ヒマラヤの旅報告書)を読んで	26-26
ヒマラヤ地方の王国(10)	P. P. カラン, W. M. ジェンキンス 26-28
ヒマラヤ物語シリーズ(5) (カシミール) でしゃばり者	S. L. サドウ 26-30

第27号 47. 11. 25

ゴザインクンドの思い出	小林 英見 27-1
トレッキングの範囲について	在ネパール日本大使館 27-1
モディコーラのトレッキング	今村 朋信 27-2
17才の国王に全権を与える。ブータン国民議会(朝日新聞より)	27-5
HAAJ ガンジロバ遠征隊のご紹介	阿部 淳 27-6
1973年日本ヒマラヤ山岳協会カンジロバ遠征隊計画	27-7
Bhutan 研究会 News No. 4~No. 6	浜 徹 27-8
ヒマラヤ学入門(その23) 山岳保険<海外登山の場合>	花崎 洋 27-9
<ミニ・ニュース> 「岩と雪」 第27号 ヒマラヤトレッキング特集	27-10
ヒマラヤ学入門(その24) 国際電報の打ち方	大木滝次郎 27-11
ヒマラヤ研究会報告, 於: 長野県大町市	27-17
ヒマラヤ地方の王国(11)	P. P. カラン W. M. ジェンキンス 27-28
ヒマラヤ物語シリーズ(6) (ネパール) 死に神に合ったダナタール	竹沢 昭治 27-30

第28号

48. 1. 25

ヒマラヤを詠む	田尻 穂穂	28- 1
私は再びネパールを訪ねる	折戸 正明	28- 2
1973年日本ヒマラヤ山岳協会カンジロバ隊ニュース		28- 3
チリメコーラ源頭とゴザインクンド・トレッキング(1972. 3)	岩水 竜峰	28- 4
HAAJカシミール登山 一報告とお礼(1972. 8)	千葉 良正	28-11
ゴビ砂漠日記, 砂漠・蜃気楼・ゲルの生活	村山 栄子	28-14
ヒマラヤ学入門(その25) 現地情報を得るには	阿部 淳	28-16
第1回 山形ヒマラヤ集会報告		28-20
Bhutan 研究会 News No. 7	浜 巖	28-25
ヒマラヤ地方の王国(2)	P. P. カラン W. M. ジェンキンス	28-26

第29号

48. 3. 25

パンジャブ・ヒマラヤ特集

1973年日本ヒマラヤ山岳協会カンジロバ遠征隊出発		29- 1
(その1) クル谷周辺のトレッキング		29- 3
(その2) クル・マナリの思い出	林 茂樹	29- 5
List of Peaks around Manali No. 1, No. 2		29-5, 29-8
(その3) パンジャブヒマラヤ遠征隊概要報告 滋賀岳連隊		29- 9
(その4) パンジャブの山 1972年夏	大嶽 藤一	29-13
Bhutan 研究会 News No. 8	浜 巖	29-16
Expedition 研究会 News No. 1	稲田 定重	29-18
ラダック研究会 一ハスナイン博士を囲んで		29-20
Expedition 研 親睦春山山行報告と感想		29-24
Expedition 研 第1回研究会報告	稲田 定重	29-24
<ミニ・ニュース> Japan Bistari Club 発足		29-38

第30号

48. 5. 25

インド・カシミール特集

(その1) インドのすばらしい“何か”	森本 達雄	30- 4
(その2) カシミール・ヒマラヤ 1971 (コラホイなど)	空 昌昭	30- 7
(その3) カシミール・ヒマラヤ 1972 (ハラムクなど)	千葉 良正	30-14
アフガニスタン・バラクラン谷などの旅 1972. 5~8	鈴木章一・柴田利雄	30-19
ラダック研究会だより	空 昌昭	30-21
日本ビスタリ・クラブ初会合 於: 名古屋	折戸 正明	30-27
Bhutan 研究会 News No. 9~11 (抜粋)	浜 巖	30-28
昭和48年度総会報告		30-29
Expedition News No. 2	稲田 定重	30-34

第31号

48. 7. 25

HAAJカンジロバ隊・カンジェラルワ(6660m)に初登頂	渡辺 文仁	31- 1
第3回東北地区ヒマラヤ研究会盛大に開催される 於: 天童市		31- 3
快調の社会主義的漫略的道路脱線走行 一カトマンズ・ポカラ, バスの旅	井関 扶	31- 4

カトマンズの政庁大火にあう(ネパール英字新聞より)	31- 6
ヒマラヤ学入門(その26) 日本での通関について	大木滝次郎 31- 7
ヒマラヤ学入門(その27) エア・インディアについて	エア・インディア 31- 9
ヒマラヤ学入門(その28) ホテルの利用	大木滝次郎 31- 9
Bhutan 研究会 News No.12	浜 巖 31-13
Tibet, Ladak 研究会 News	空 昌昭 31-14
Expedition News No.3	稲田 定重 31-15
ヒマラヤ物語シリーズ(7)(ネパール) グルー・マッパ物語	竹沢昭治編 31-23
第1回 HAAJ長野研究会開催される	31-26

第32号

48. 9. 25

ヒマラヤの旅特集号

ヒマラヤへのツーリズム	コマンダー, M.S. コーリ 32- 2
ヒマラヤの旅, 質問と解答	32- 6
ネパール・ヒマラヤ, ラムジュン・ヒマール登山計画	32-14

第33号

48. 10. 25

各地でヒマラヤ集会開催される, 富山ヒマラヤ集会(コーリ氏を囲んで)	33- 1
インドヒマラヤ登山 —パンジャブとカシミールを中心として—	コマンダー, M.S. コーリ 33- 5
インドヒマラヤの山々	K.P. シャルマ 33- 8
M. S. コーリ(岳人誌より)	沖 允人 33- 9
ネパール 1973年 8月	沖 允人 33-10
ラムジュン・ヒマール(6983m)遠征計画について	33-12

第34号

49. 1. 25

年頭あいさつ	柴田金之助 34- 1
スワートのこのごろ	沖 允人 34- 2
スワート 1973年	34- 3
3つの無名峰登頂とセントラ・ピーク試登	岸三千彦, 江原光夫 34- 5
スワート地方の概要	出口 当 34-10
HAAJ スワート・ツアー参加者現地便り	34-14
<ヒマラヤのホテル紹介> パキスタン編(その1) カラチ	34-15
ヒンズークシュ・カラコルム会議開催さる	34-17
ヒマラヤ学入門(その29) 国際電話のかけ方	渡部 信子 34-17
ヒマラヤ学入門(その30) ヒマラヤ概説	大崎 正信 34-20
ネパールのシェルパ, The sherpas of Nepal	J. ボーディロン 34-22
HAAJ・日本ビスタリー・クラブ第2回集会(木曾)	34-30

第35号

49. 3. 25

アッサム・ガイド —青い丘とみどりの谷—	35- 2
アッサムのこと	橋本 実 35- 9
ビルマ奥地のこと	橋本 実 35-10
ブータンのこと —入国手続—	沖 允人 35-11

ヒマラヤ学入門(その31) ヒマラヤの気候概説	大崎 正 信	35-13
今冬のネパール・トレッキングの苦言	沖 允 人	35-17
ネパールのシェルパ	J. ボーディロン	35-18
ネパール国王の戴冠式の日程決まる(英字新聞より)		35-22

第36号 49. 5. 25

昭和48年度 総会報告		36- 1
ガルワル山麓の旅 —1974年2月—	沖 允 人	36- 4
シッキム, アッサムの旅 —1—	藤 井 毅	36-11
ネパールの宗教	岩 水 竜 峰	36-20
ハスナイン博士のこと	堀 内 立 三	36-22
まぼろしのコラホイトレッキング —1973年3月—	福 井 浩 之	36-24

第37号 49. 7. 25

第4回 東日本ヒマラヤ研究会盛大に開催さる		37- 1
ニルカント登頂(1961年インド隊)	沖 允 人	37- 3
シッキム, アッサムの旅 —2—	藤 井 毅	37- 7
インドの避暑地マナリ(Manali)について	藤 崎 和 生	37-14
<ネパール・ニュース> カトマンズに本格的日本料理店誕生		37-21
<ネパール・ニュース> ツクチュ・ピーク・レストハウス新館完成		37-22
<インド・ニュース> インド・ヒマラヤ, ブータンがオープンの方角へ		37-22
ラムジュン・ヒマール隊出発		37-22
HAAJ ビスタリー・クラブ第3回集会・盛大裡に終る		37-23
リエゾン・オフィサー, サーダー, およびポーターの保険に関する規則(ネパール)		37-24
ガルワル, カシミール地区, 大巾に外国人にオープン —ラダックの一部も—		37-28

第38号 49. 9. 25

カシミール特集号

HAAJ カシミール・ツアーの概要報告		38- 1
HAAJ キャンプ場 チシマシャイの丘に開かれる		38- 1
HAAJ カシミール集会報告		38- 2
カシミールの感想文	すてきなインド(伊藤洋司)	38- 4
	インドで馬にのったこと(伊藤麻弥)	38- 5
	カシミール旅行(沖ゆかり)	38- 6
	インドで楽しかったこと(沖高行)	38- 6
	インドに来てよかったこと(伊藤慎敬)	38- 7
Sonamarg, Thajwas 北面の試登	久 保 幸 治	38- 7
ハラムク周辺の山	内 田 嘉 弘	38-11
カシミール一人旅	浜 口 徹	38-15
カトマンズとスリナガル	黒 沢 文 代	38-16
カシミール登山局のこと	沖 允 人	38-16
秘境ラダックを訪ねて(下野新聞などより)	空 昌 昭	38-20
秘境の観光化に力貸して(朝日新聞より)		38-29

第39号 49. 11. 25

ラムジュン・ヒマール(6993m)新ルートから登頂、	39— 1
長野ヒマラヤ集会開催さる	39— 3
キシウトワール(カシミール)	R. N. Pasricha 39— 5
キシウトワール地方のトレッキング案内	沖 允人 39— 7
ブータン；ヒマラヤの桃源境(インド英字新聞より)	39— 9
<ブータン情報> ブータン観光客にオープン	沖 允人 39—12
ネパールにカムバ族騒動	清水 澄 39—14
ラダックの印象	稲生由美子 39—15
ネパールの宗教に関する一考察(岐阜女子大学紀要より)	岩水 竜峰 39—16

第40号 50. 2. 25

1975年インドヒマラヤ遠征計画を進めるにあたって	40— 1
ガルワルの初期探険者たち	大木滝次郎 40— 5
ガルワル山麓、クマオンヒルの旅	藤条 好夫 40— 7
ピンダリー氷河へのトレッキング	D. P. パンディ 40— 9
ネパールの宗教に関する一考察(岐阜女子大学紀要より)	岩水 竜峰 40—14
1974年前半のインドヒマラヤ登山(速報)	沖 允人 40—28
体験的デリー案内	沖 允人 40—31
インドで長く暮すこと	沖 允人 40—34
八戸集会報告(青森県)	40—36
<ヒマラヤの旅紹介> 秘境ラダックを訪ねる旅	40—42
ニューデリーにHAAJ事務所開設	40—44

第41号 50. 3. 25

世界の屋根の争い	沖 允人 41— 1
アルチの寺(ラダック)	M. D. カーン 41— 3
ペンジケントの遺跡で	堀内 立三 41— 4
体験的デリー案内(つづき)	沖 允人 41— 5
ラホール谷(インド・パンジャブ地区)	Sita World Travel 41— 6
ネパールの戴冠式おこなわれる	41—12
アッサム研究会を作りませんか	藤井 毅 41—14
<ミニ・ニュース> 日本人好みのホテル出来る(カトマンズ)	41—15
ブータンへおいで下さい	ブータン観光局より 41—15
<ミニ・ニュース> 在ネパール日本大使館移転	41—15

第42号 50. 5. 1

HAAJとは何か将来と現状	稲田 定重 42— 2
シッキム冬の旅	沖 允人 42— 5
ヒマラヤ学入門(その32) 手紙と小包の料金について	大木滝次郎 42—10

HAAJ会費値上について	42-12
デリー・デポ・トレッキング装備(一般貸出し用)	42-16
トレッキング用海外保険のご案内	42-19
1975年日本インド合同カシミール遠征計画	42-22

第43号 50. 6. 1

昭和50年度 総会報告	43- 1
HAAJ 創立10周年記念 —ファミリー・ツアー—	43- 1
HAAJ ガルワール・ヒマラヤ遠征隊計画	43- 7
アッサム, シッキムのこのごろ	沖 允人 43-10
<紹介>HAAJの専門研究会 =I= Expedition 研究会	43-13
<地区便り>北海道地区・最近の話題	阿 部 淳 43-13
ヒマラヤに関する質問と解答	43-15
ヒマラヤ学入門(その33-1) インド・パキスタン語	古賀 勝郎 43-15
体験的インド・ヒマラヤ登山渉外論	清水 澄 43-17
ラムジュンのこと, インドのこと	佐々木 正 43-18
<ヒマラヤ閑話>(1) クン初登頂記録について(1)	水 野 勉 43-19

第44号 50. 7. 1

研究会のおきそい(秋の大白川ヒマラヤ研究会)	柴田金之助 44- 1
盛会!! 第4回 HAAJ ビスタリー・クラブ 於:愛知県豊根村	44- 4
カシミール	M. シンハ 44- 5
ザスカールへの夢	沖 允人 44- 8
ヒマラヤ学入門(その33-2) インド・パキスタン語(つづき)	古賀 勝郎 44-12
体験的デリー案内(続々)	沖 允人 44-13
栄光と悲慘くっきり, ネパール・ヒマラヤの季節終わる(朝日新聞より)	44-16
日本の女性登山隊, エベレスト登頂成功(毎日新聞より)	44-17
カシミールを旅行した思い出	今井千代子 44-18
カシミール・ラダック写真展開催さる, 於:栃木県小山市	44-20
カシミール・ラダック写真展を見る	植 竹 清 孝 44-21

第45号 50. 8. 1

ガルワール山麓の名勝地	インド観光局 45- 1
第5回東日本ヒマラヤ研究会の終了にあたって	加 賀 勝 45- 6
ハルディオル 7151mの悲劇 1974年インド・ニュージーランド隊	沖 允人 45- 7
ミラム氷河情報(ガルワール山群)	沖 允人 45- 9
シムラを起点とする山岳地情報	大木滝次郎 45-10
ヒマラヤ学入門(その34) パスポートのこと	大木滝次郎 45-14
「ヒラリーを励ます会」について	45-15
HAAJ ラダック踏査隊(1974)	小 川 務 45-16
HAAJ ヒマラヤ基金 —募集—	45-17

第46号

50. 9. 1

ガルワル、ヘムクンド紀行 標高4328mの湖を訪ねて	沖 允人	46- 1
HAAJ・NK登山隊だより その1, その2	山森副隊長	46-12
HAAJ・GH登山隊だより その1	遠征隊事務局	46-12
ガルワル隊家族会の報告、於：京都市		46-13
第1回 HAAJ インドヒマラヤ遠征実行委員会(要旨)		46-13
ヒマラヤに関する質問と解答		46-14
ヒマラヤ学入門(その35) 国際運転免許証	大木滝次郎	46-16
ブータンでペンフレンドを希望		46-17
インド登山の手伝は Cox & Kings 社をご利用下さい		46-17

第47号

50. 10. 1

ブータンの人々のくらし	戸波 啓子	47- 1
ネパール小史	大木滝次郎	47- 3
ネパール農業・農山村の現状(月刊地理より)	山野 明男	47- 4
<ヒマラヤ閑話>(2) クンの初登頂記録について(2)	水野 勉	47-11
第4回 日本ネパール研究学会開催される		47-12
ヒマラヤ学入門(その36) ネパールの国内航空	大木滝次郎	47-13
カトマンズ・デリーの登山用具・食糧などの値段	佐々木正・沖允人	47-15
HAAJ・NK登山隊だより その3 8月3日 スリナガルにて	山森副隊長	47-19
HAAJ・GH登山隊だより その2 8月13日 デリーにて	稲田副隊長	47-
インド登山規則「Application for climbing Indian Himalayas by Foreigners」1975		47-21

第48号

50. 11. 1

HAAJ ガルワル隊、初登頂! ナンダデビー山群 P.6992mとP.約7000m		48- 1
HAAJ・GH登山隊だより その3 その4 その5 (最終会)	清水 隊長	48- 2
伊藤寿先生(岩手県)カラコルムで遭難 追悼	岩水 竜峰	48- 8
伊藤先生逝く	植竹 清孝	48- 9
伊藤先生のこと	沖 道子	48- 9
伊藤先生安らかに	佐々木 正	48-10
<ヒマラヤ閑話>(3) クン・その他	水野 勉	48-11
ネパールの旅、ランタン方面	林 きゆり	48-14
シェルパ —エベレストの人々—	Mario Fantin	48-16
ラダック(その1)	N. L. Bakaya	48-19
ネパールの関税基準大幅に変更さる	B. ランジャン	48-24

第49号

50. 12. 1

ガルワル・ヒマラヤ(カランカ登頂)	田辺 郁夫	49- 1
ダジ・マハール“大理石の城”	倉橋洋次郎	49- 2
1975年HAAJカシミール隊、ガルワル隊帰国挨拶		49- 5
ラダック(その2)	N. L. Bakaya	49- 6

ヒマラヤ学入門(その37) 通関案内	大蔵省関税局パンフより	49-12
秋のHAAJ総会・親睦登山報告		49-12
第2回 HAAJ ヒマラヤ委員会要旨		49-15
ある昔の想い出	高沢 忠	49-16

第50号 51. 1. 1

賀正 —HAAJ 創立10周年を迎えて—	柴田金之助	50- 1
秘境ザスカール山群, ビズドン峠(4810m)・HAAJ ザスカール踏査隊		50- 2
第7回ヒンズークシュ・カラコラム会議報告, 於: 福岡市		50- 7
「ヒマラヤ」主要目次 —第20号〜第50号—		50-11

HAAJ 出版物リスト

50. 11. 20 ※印在庫あり

資 料 名	発 行 日	判型	頁数	頒 価	編・著 者
<ヒマラヤ・ライブラリー・シリーズ>					
(1) ネパール王国旅行案内 初版	44. 5	B6	36	200	沖允人
(2) ネパール王国旅行案内 第2版	45. 6. 25	B6	36	200	"
(3) カトマンズとその周辺	45. 6. 25	B6	50	300	"
(4) エベレストの麓へ	45. 8. 1	B6	95	400	"
※(5) カシミールの街と山	50. 5. 15	B6	66	600	"
※(6) インド・ヒマラヤ・トレッキング	49. 5	B6	39	—	AIR INDIA
※(7) ネパールの旅	50. 11. 1	B6	66	600	沖, 佐々木正
<ヒマラヤ研究・シリーズ>					
(I) 第1回東北ヒマラヤ研究会報告書	46. 11. 25	B5	135	800	稲田定重
(II) トレッキングのすべて	47. 7. 1	B5	163	900	沖允人
※(III) ネパールヒマラヤの旅報告(地図1葉つき)	47. 8. 1	B5	174	1,200	"
※(IV) 第2回東北ヒマラヤ研究会報告書	47. 10. 1	B5	170	1,100	稲田定重
(V) ブータン研究 200部限定(ガリ版)	47. 11. 28	B5	123	1,000	沖允人
(VI) ワハン研究 200部限定(〃)(谷川哲夫訳)	47. 12. 15	B5	64	800	"
※(VII) チベット・ラダック研究	48. 9. 1	B5	64	1,000	"
※(VIII) 第3回東北ヒマラヤ研究会報告書	48. 12. 10	B5	168	1,400	稲田定重
※(IX) EXPEDITION I	49. 10. 1	B5	348	2,000	山田康雄
※(X) ヒマラヤを歩き, そして登るために	50. 11. 1	B5	274	2,400	沖, 小島, 加賀
<紀行・記録・研究・調査, 個人的なもの, など>					
シュルパリスト 概要	48. 3	B5	84	600	沖允人
※シュルパリスト 第2版	50. 8. 1	B5	76	900	山下政一
※HAAJ カンジロバ隊帰国報告書	48. 7. 20	B5	14	300	渡辺文仁
※長野ヒマラヤ研究会報告	48. 5	B5	22	100	竹沢昂
カシミールの山, HAAJ 1971年隊報告	47. 3. 20	B5	56	600	空昌昭
※秘境小チベット・ラダック(地図3葉つき)	50. 8. 1	B5	132	2,400	沖, 空
※ヒマラヤの桃源境 ブータン・シッキム・アッサム	50. 9. 20	B5	159	2,200	沖允人
ネパールの旅 1968.10~11 札幌グループ	44. 10. 30	B5	40	—	阿部淳
ヒマラヤの旅 第7回ゴラパニグループ	47. 5. 5	A6	35	—	山下政一
ランタン谷 1971.12~1972.1 冬期踏査隊	48. 4. 1	B5	154	1,400	稲田定重
ヒンズークシュ踏査隊報告 1969 富山教職員隊	45. 8.	B5	91	300	橋本広
ラダック日記 1975.7~8(ガリ版)	50. 11. 7	B5	34	—	石川, 宗綱

＝海外トレッキング・登山は専門スタッフにおまかせください＝



インド大陸、中近東方面へ当社独自のプランをいたしております

ツアー名

- ★シルクロード 6,000キロ
- ★ネパールとアフガニスタン
- ★砂漠の国アフガニスタンと最後の桃源境フンザ
- ★大ペルシヤとアフガニスタン

——お問い合わせは下記まで——

(株) トラベル日本

〒100 東京都千代田区有楽町 2-2-1
ラクチョウビル5F 電話 (03)572-1461

担当——^{とよいけ}外池・永瀬・月候・小島

海外登山,トレッキングに傷害保険を

——海外旅行傷害保険(運動危険担保特約付)について研究しております——

^{タケ}
岳

産業にご相談して下さい！

あなたの所得を補償する保険をご存じですか？(所得補償保険)

- 所得補償1～5年、傷害特約60～120倍までいろいろあります

自動車・火災・レジャー(山岳保険・国内旅行・つり・ゴルフ・ヨット)・普通傷害・利益・生産物等の私達の生活に関連した保険を取扱っています。岳産業の西田までご連絡下さい

大正海上火災^{タケ}保険(株)代理店 岳産業

大阪市淀川区西中島町5丁目第3チサン10F 6号 〒532
TEL 06 (304) 1115番
・ルスノトキ＝大正海上十三営業所 304-5774

ヒマラヤの旅はヒマラヤのヨロズ屋へ

EXPRESS TREKKING

トレッキングからエクスペディション
まで全て引き受けます。

装 備 貸 出 ・ シェルパ斡旋 ・ 現地食料調達
国内外輸送手配 ・ 別送貨物通関 ・ ヒマラヤ情報……

EXPRESS TREKKING(P) LTD. EXPRESS HOUSE

NAXAL BHAGABATI BAHAL

P.O.BOX 339 KATHMANDU NEPAL

電略 GREATREK・KATHMANDU TEL.13017

EXPRESS HOUSE

カトマンズの宿泊はEXPRESS HOUSE
をご利用ください。

家庭的なムードで宿泊代も安く気軽に泊れる宿です。
特に日本のお客様には大浴場が好評です。自炊もで
きます。 宿泊代＝1泊朝食付30RSから

※長期滞在者はお相談に応じます。

日本語でお問い合わせください

発行 日本ヒマラヤ山岳協会
柴田 金之助
編集 「ヒマラヤ」編集委員会

名古屋事務所
東京事務所

昭和五十一年一月一日発行
四六八 名古屋市中天白区一ツ山一丁目四十五番一十八
一六四 東京都中野区中央三丁目四十五番一十八
通巻第五十号

沢本ビル1F

定価 五〇〇円・送料七〇円
五二一八〇一―四四一四
三三六五―二一六二